

会報

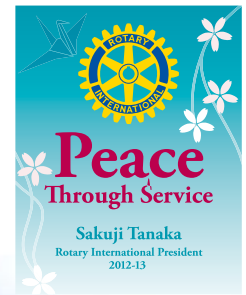
過去に学び
次世代への継承

2012～2013年度 会長 黒島 一生

第2686回 11月20日(火)

2012～2013

奉仕を通じて平和を
心・家族・地域・世界に平和の恩恵を



本日のプログラム

「函館税関の概要」

財務省 函館税関 税関長 木村 祐二 氏

次週のプログラム 11月27日(火)

「ロータリー財団月間によせて」

矢島 千穂 会員

- 例会場/ホテル函館ロイヤル TEL(0138)26-8181(代)
- 例会日/毎週火曜日 12:30～13:30
- 事務所/ニチロビル4F TEL(0138)23-3870 FAX(0138)22-2251
- 会長/黒島一生 ● 副会長/戸嶋浩 ● 会長エレクト/池垣信一
- 幹事/佐藤真一 ● 副幹事/五十嵐正
- 友好クラブ/青森東ロータリークラブ・長崎東ロータリークラブ

第2685回例会 2012年11月13日(火)天候 曇

月間テーマ ロータリー財団月間

■ロータリーソング 我等の生業

■司会 黒島 一生 会長

■ゲスト 函館海洋気象台

観測予報課技術専門官 笠原 隆志 氏

業務課調査係長 新谷 宏 氏

■会長報告

1、11月6日当ロイヤルホテルにて第3回クラブアッサンブリーを開催いたしました。

2、理事会報告

①親睦活動委員会クリスマス家族会について承認。

②会員拡大委員会会員拡大ご紹介キャンペーンについて承認。

③地区大会収支報告について承認。

④職業奉仕委員会職場訪問事業報告について承認。

⑤その他国際ソロプチミスト函館創立40周年記念式典に出席すること承認、次年度ガバナー補佐推薦の報告、軟式野球連盟納会参加の報告。

■委員会報告

1、会長エレクト：11月10日札幌にて開催されました地区補助金管理セミナーに参加してまいりました。

函館海洋気象台は、国土交通省の外局である気象庁の地方支分部局です。自然災害の軽減、交通安全の確保、産業の発展などを実現することを任務としています。海洋気象台は、函館の他に神戸・長崎・舞鶴の4箇所に置かれています。地方単位以下の地域に対しての情報の発表や提供、解説を主な業務とする地方気象台の役割に加えて、日本周辺海域における海上と海洋の観測・監視業務を行っています。

現在は、総務課、業務課、海洋課、海上気象課、観測予報課に分かれて業務を行っています。観測予報課は、地域に対して広く各種の防災気象情報を発表し提供するための業務を一年中×24時間休むことなく行っています。具体的には、次のとおりです。

- ①気温や風向風速、大気現象などの気象観測、渡島・松山地方の気象実況の監視
 - ・地上気象観測・地域気象観測
 - ・レーダー気象観測・生物季節観測など。
- ②天気予報や各種防災気象情報の発表
 - ・府県天気予報・週間天気予報・気象注警報
 - ・竜巻注意情報・府県気象情報など。
- ③地震、津波、火山観測情報の解説業務
 - ・緊急地震速報・地震津波情報・津波注警報
 - ・火山活動解説資料など。

また、気象に関して地域の皆様に直接職員がお答えする電話照会も行っています。

函館海洋気象台は、気象観測を公に開始した日本で最も古い気象台です。函館海洋気象台の前身である「函館気候測量所」が、明治5年(1872年)8月26日、現在の末広町の金森倉庫群のあたりに開設されました。当時の函館は、江戸時代末期に開港した伊豆の下田と並び船舶による諸外国との交流が行われていたため、気温や気圧などの観測値が必要だったのです。その後何度か場所を移転して、昭和15年(1940年)に現在の美原の地に移転しました。その頃は、ここ美原が函館の商業地

「函館海洋気象台 観測予報課の 業務紹介」

函館海洋気象台
観測予報課技術専門官
笠原 隆志 氏



■笠原 隆志(かさはら たかし)氏
プロフィール

生年月日：昭和43年12月生まれ 43歳
勤務先：函館海洋気象台 観測予報課
役職名：技術専門官
学歴：函館市立東高等学校卒
経歴：気象庁職員歴25年 道内9気象官署を異動
気象予報士の資格を取得し、天気予報をはじめとした
各種防災情報の提供業務に従事
趣味：掃除洗濯

の拠点の一つとなることは想像しなかったことでしょう。気象台の敷地内にある生物季節観測を行うための標本木群の一角が、当時の美原の面影を映しているように感じるの、きっと私だけではないように思うのですが、いかがでしょうか。

■渡島・檜山地方の地上気象観測

函館海洋気象台では、「露場（ろじょう）」という観測用の敷地内などに設置した地上気象観測装置を用いて、気圧・気温・湿度・風向・風速・降水量・降雪の深さ・積雪の深さ・日照時間・日射量を観測しています。また、職員の目視により、降雨や降雪・雷・霧などの大気現象、雲の量や種類、視程の観測を行っています。江差特別地域気象観測所では、地上気象観測装置による自動観測を行っています。



■地域気象観測（アメダス）

アメダスは、雨・風・雪などの気象状況を時間的、地域的に細かく監視するため、降水量・風向・風速・気温・日照時間・積雪の深さの観測を自動的に行い、気象災害の防止や軽減に重要な役割を果たしています。アメダス (AMeDAS) は「Automated Meteorological Data Acquisition System」の略で、「地域気象観測システム」といいます。

■渡島・檜山地方の地域気象観測

渡島・檜山地方には、気象官署および航空気象官署を含めて22か所の地域気象観測所を設置しています。函館海洋気象台では、これらの観測データを監視するとともに、警報・注意報や天気予報発表のために活用しています。

■日本最初の気象観測所

幕末当時の背景として、伊豆の下田とならび海外への窓口となった開港場「箱館」（明治2年（1869年）以降は「函館」）には、外国人が渡来し在留するようになり、自身の必要性から、不統一ながらも気象観測が実施されていました。

記録によると、ロシア人の医学者アルブレヒトは、安政6年（1859年）から2年間、箱館付近の自宅で気象の観測を行い、万延元年（1860年）には雨と雪日数を観測していました。

また、ブラキストンライン（津軽海峡を境とした北海道と本州の動植物境界線）を発見したほか、いくつかの科学的業績を残したイギリス人実業家ブラキストンは、元治元年（1864年）から明治4年（1871年）までの8年間、降雨雪日数を観測し、慶応4年（1868年）からは気圧や気温の観測を行っていました。

開拓使函館支庁の福士成豊（ふくしなりとよ）はブラキストンの観測を引き継ぎ、船場町（現在の函館市末広町）にあった自宅に観測機器を設置してこれを「函館気候測量所」とし、明治5年（1872年）8月26日から観測を開始しました。

これが我が国の気象観測所における気象観測の始まりです。

日本における気象観測開始の古い順位

- ・第1位 函館：明治 5年（1872年）
- ・第2位 東京：明治 8年（1875年）
- ・第3位 札幌：明治 9年（1876年）
- ・第4位 長崎：明治11年（1878年）
- ・第5位 広島：明治12年（1879年）

北海道における気象観測開始の古い順位

- ・第1位 函館：明治 5年（1872年）
- ・第2位 札幌：明治 9年（1876年）
- ・第3位 根室：明治12年（1879年）
- ・第4位 寿都：明治17年（1884年）
- ・第5位 旭川：明治21年（1888年）

■ニコニコボックス

黒島会長、佐藤真一幹事 函館海洋気象台 笠原様、本日の卓話宜しくお願ひ致します。

池垣清信会員 会長、幹事 親睦活動委員会頑張って下さい。

小野会員、堀会員、安田真也会員 月始めです。

■出席報告

- ・11月13日(火) 46名中出席33名(免除2名)
- ・10月30日(火) 出席率82.22%

■広告料

森元不動産鑑定事務所 森元浩会員
株ホテル函館ロイヤル 南部知正会員
協同組合函館労務協会 黒島一生会員

東京海上日動火災保険(株)代理店 (株)今井保険事務所
今井義憲会員

市内他クラブ プログラム

11月21日(水) 函館北 R C

「函館の街づくり」 工藤 壽樹 氏

11月22日(木) 函館 R C

「事業継承について」 伊地知 克哉 氏

11月23日(金) 函館五稜郭 R C 祝 日 休 会

11月26日(月) 函館亀田 R C 夜 間 例 会

◆ テレホンサービス 26-3170 ◆

大森稲荷神社

小野 孝良 会員

大森町22-6 電話 22-2637

(株)みちのく銀行 函館支店

佐藤 正明 会員

千歳町9-10 電話 23-8101